

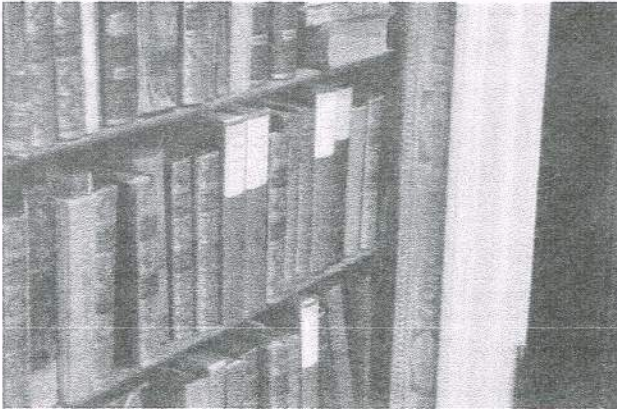
アワプラジオ通信【2015年6月号】

■発行元 アワプラジオクリエイティブ ■102-0084 東京都千代田区二番町5-2 麹町駅プラザ901
■E-Mail: awapuradio@gmail.com ■TEL: 03-6868-5129 ■Web: <http://awapuradio.com/>

インタビューシリーズ

フリーペーパーに書評を執筆するボランティア活動

浅香友里さん、内藤千尋さんに聞く



今回は毎月本誌に『本の紹介』を執筆している浅香友里さん、内藤千尋さんの二人の女性にお話をうかがいました。

■アワプラジオ通信公式サイト
<http://awapuradio.com/freepaper/>

——まずはアワプラジオ通信にかかわるきっかけを話してください。

浅香友里さん（以下、浅香）：元々文章を書くことが好きでそのような仕事を探していたところ、千代田区のボランティアセンターのホームページでこちらの募集を見つけました。

内藤千尋さん（以下、内藤）：私も同じく千代田区のボランティアセンターのホームページからです。いくつか他のボランティアにも参加したのですが、ここの募集もずっと気になっていて。大変そうだなと思いましたが文章のトレーニングにもなるので挑戦してみました。

——これまで書いてみて大変だと思う点は。

浅香：私は好きな作家さんがけっこう偏ってしまうのですが、毎月同じようなものでは読むほうもつまらないと思うので、なるべくいろいろなジャンルを紹介しようと考えています。ですから本選び

がいちばん大変ですね。内藤さんが選ばないだろうと思うようなチョイスをするなど。この間は写真集を選びました。

文章を書くこと自体は内藤さんもおっしゃったようにトレーニングだと思い、つらくても楽しんでいきます。

内藤：私はあまり浅香さんのようにバランスを気遣ったりはしていません。ですから今のお話を聞いて反省しています（笑）。私は素直に自分がお薦めしたいと思ったものを選んでいきます。後で大変にならないよう、余裕のあるときになるべく書きためておくようには心がけています。

——書いてみて周りの反応はいかがですか。

浅香：残念ながらそれほど騒がれてはいません（笑）。ただ私が文章を書くことが趣味だったのだということを知った人からは驚かれますね。

内藤：私は毎回自分のFacebookにデータをアップしているのですが、そこで「いいね！」を付けてもらったりとやはりうれしくなりますね。

——書く上で特に心がけていることはありますか。

浅香：あらすじの説明だけではなく、でも自分の感想文にもならないよう気をつけています。あとは日本語の有利な点でもある漢字を使って、視覚的にイメージを伝えるようにしています。

内藤：本の構成や絵の大きさ、カラーなのかモノクロなのか等をなるべく具体的に書いて、読む方がイメージしやすいように心がけています。また、自分が特に惹かれた箇所は必ず記述するようにしています。

——文章を書くことが好きになったきっかけは。

浅香：私事ですが7年前に離婚をしました。落ち込んでいるときに友人からブログを書くことを勧め

られました。それをきっかけにエッセイや詩を書くようになりました。書いていくうちに自分の作品に愛着がわくようになり、コンクールに出してみたら賞をいただくことができました。それが何回か続き自信を持てるようになりました。

内藤：語学の検定試験の本を読んでいたときに、書評を書くという課題があることを知り、そこに書かれていた模範解答例がとてまかつこよかったのが印象的でした。自分もいつかその検定を受けるかもしれないと思いつつ、それ以前に日本語力にもあまり自信がなかったのも、そのようなトレーニングの場を探していたときにアワラジオ通信の募集に出会い、書くことを始めました。

——本の紹介を書くようになってから本を選ぶ視点に変化はありましたか。

浅香：もちろんありますよ。もう本の紹介を書くことありきの視点で選んでいます。刑事もの（の小説）などが好きだったのですが、たまには明るい本を選んでみたいするようになりました。あとはいま人気があるものをチェックするようになって、図書館のカードまで作りました。

内藤：私はそこまで変化はないですが、周りの人が

勧めてくれたものをチェックしたり、他の人の書評と自分のものを比較してみたりしています。あえて他の人が紹介を書いた本を選んで自分も書いてみることもありましたね。

——アワラジオ通信に対して思うことや他に書いてみたいことなどがあれば聞かせてください。

浅香：私は旅行が大好きなので、旅行記みたいなものに挑戦してみたいですね。

内藤：誌面のデザインがもっとおしゃれになるといいですね。誰かデザインできる方を募集してください（笑）。（まとめ：井上舞香）

ボランティア編集者・デザイナーさん募集！

アワラジオ通信のデザインやレイアウトをやりたい方を募集します。その他、企画立案や取材など、制作にかかわってみたい、興味があるという方からのご応募・お問い合わせも歓迎です。ぜひお待ちしております。

■連絡先 awapuradio@gmail.com

Abe's VIEW Vol.7 「手放すということ」 あべこう一



少し前に断捨離という言葉が流行りましたが、人は何かを手放すことでその空いた隙間に新しい何かを取り込むことができるのだそうです。言い換えれば過ぎ去った時間にこだわり続けていたり、もう必要ない物をいつまでもため込んでいたりする限り、新しいことを取り入れる余地はなく停滞したままということも言えます。

いやいや、ずっと持ち続けていればいつか役に立つのだ、値上がりするのだという理屈は置いておいて、これに照らすと人間が引き受けることのできる器の大きさは、個人差はあっても決して大きいものではなさそうです。そもそも命が有限であるわけですから、自分にとって必要ではないと思えることにはできるだけ時間を割きたくない。洪水のように毎日やってくる情報を前にそう思いながらも、つい翻弄されてしまう自分もいます。

捨てる、あきらめる、見切りをつけるといったような行動にはある種の勇気が必要だしエネルギーを使います。けれども意外に捨て去ったものはすぐ忘れてしまえるものでもあります。自分という限られた倉庫の

中が混沌としてきて、新しいものを収納するスペースがなくなったとき。いらぬものを見つけようとしてもなかなか難しそうなので、優先順位の低いものから選択して捨てていく。それによって常に自分自身の鮮度を保てたらいいのではないのでしょうか。

一方で変わらないこと、“進歩しない自由”というようなのもあっていいのではないかと思うのです。手放すことで楽になるし自由にもなれるけれど、“自由でいなければならぬという不自由”に抗いたくなる。ひねくれた話ですが。

本の紹介

牧場都市 (1985年12月)

「おみぞれ社会」内に収録 他十篇

星新一 著・新潮文庫・360円



むかし国語の教科書にSF作家、星新一の作品が載っていた。それがきっかけとなり彼の作品を読み漁った。中でも印象深い作品だったのが「牧場都市」というショートストーリーだった。星新一の作品は一見すると子供っぽい。だがそのオチは

シビアで現代社会の痛いところを刺してくる。さしずめ大人のおとぎ話といったところか。

「牧場都市」にも宇宙人が登場する。地球を支配したゼビア星人は、地球人を自星へ送り食糧とするため、巧妙な手口で誘惑し、ある一定の体重に増えた者から消していく。だから地球人はゼビア星人からの誘惑、すなわち性や食の欲求から耐え続けなければならない。負ける者は淘汰され、我慢強い者が残る。

この世には欲求が散在し、それが元で問題や争いを抱えている現代の地球人。それを救えるのは、人間には思いもつかない発想を持った、それこそ宇宙人だけなのではないか。そんなふうに錯覚してしまう。だが実はこの錯覚が当たらずも遠からずといったラストなのだ。彼らの目的は食糧のみにあらず。ラスト数行で判明するゼビア星人の本音に思わず唖ってしまう。

—アイディアは欲求によって生まれる—それが進歩の真理であることは間違いないのだが、我々はゼビア星人の言葉にも少し耳を傾ける必要があるのか

もしれない。(浅香友里)

不味い! (2005年12月)

小泉武夫著・新潮文庫・464円



美味しいものはなぜ美味しいのかその探求がし尽くされたとはとても思えないが、何故料理や食べ物が不味いのかその原因を考えた本は少ない。うまみ成分としてイノシン酸やグルタミン酸が知られている、甘味・酸味・苦味・塩味・渋味に

次ぐ第六の味覚としてうま味が加わっている。もちろん料理の美味しさはそれ以外にも嗅覚を通じた香ばしさもまた重要な要素である。

もし美味しさの要が無かったらそれもまた不味さの原因になることもあるだろう。韓国の祝祭料理ホンヨ・フェヤスウェーデンの発酵魚缶詰シュールストレミングをはじめとして、世界の様々な珍味を食べ歩いた発酵科学の研究者小泉武夫が様々な不味い食べ物のエピソードを披露しながらその原因を分析する。

この本では身近なものが多く焼き肉店での牛の睾丸、塩分の多すぎるラーメン等の話が収められている。不味さに共通する一因子や他にひろく応用できる試論を挙げているわけではなく、章仕立てで不味かったものを列挙しているが、発酵学の専門家が述べる考察は面白い。不味さを知ることによって、美味しさに関してより知ることが出来るかもしれない。いわば裏側からのアプローチともなるだろう。

(内藤千尋)

アワプラジオ通信の定期購読は『あべこうーファンクラブ “Oasis”』へご入会を!

【入会金0円・年会費4200円】■お申し込みの上、下記の口座へ年会費をお振り込みください。

【郵便振替】

郵便振替口座 15530-3969671 名義 阿部浩一

※他の金融機関から振り込む場合

店名 五五八(ゴゴハチ)

店番 558 普通 0396967

【銀行振込】

三菱東京UFJ銀行 インターネット支店

普通 3772395 名義 阿部浩一

中央労働金庫 本店営業部

普通 3113628 名義 アワプラジオ 事務局長 阿部浩一

あべこう一の音楽活動

■2015. 6. 29 (月) 下北沢 LOFT (東京)

18:30 Open/19:00 Start

場所: 下北沢 LOFT

(小田急線・京王井の頭線『下北沢駅』南口5分)

チャージ: ¥1500 (1Drink 付)

出演: 佐野楓 あべこう一 坂入俊介 能勢ヨウ
※あべの出演時間は19時40分頃を予定しています。

■2015. 7. 18 (土) 下北沢スムルトロン (東京)

「minako+あべこう一 ~波瀾万丈カフェ Vol. 2~」

15:30 Open/16:00 Start

場所: ダイニング&ミュージック スムルトロン

(小田急線・京王井の頭線『下北沢駅』北口・西口5分)

予約/当日: ¥2,500/¥3,000 (1Drink 付)

ゲスト: エモーションナルアーティスト minako

■あべこう一の CD アルバム



夏に消えていく
(2013年作品・1543円)

1. 夏に消えていく
2. 君と僕と冷えたコーラ
3. イニシャル 2013
4. 雷 Dance!
~雨の夜のサーカス~
5. タイムカプセル

●詳細はこちら <http://k-abe.jimdo.com/shop/>



東京実験 (2012年作品・2038円)

1. いろりカフェー
2. 悲しくもおだやかな世界
3. Change
4. イニシャル
5. 無題ドキュメント
6. 風のドラマ
7. 雷の下で雨粒に撃たれ

■CD-R 『HOME&STUDIO RECORDING DEMO ARCHIVE SERIES KOHICHI ABE』

1997年~2003年頃にかけて制作された貴重なデモ音源。500円でライブ会場のみ販売となります。



1. Rock Band -アコギバージョン-
2. 純情を遠く運び去ったものたち
3. Hello Goodbye だ...
4. 無自覚なビート
5. ぶんぶんぶん
6. Every day I Wake Up
7. 似顔絵
8. 形見
9. 風のドラマ
10. Change
11. 水のように透明な愛がいい
12. 悲しきメリーゴーランド
13. いろりカフェー

14. Rock Band -バンドバージョン- 15. あおはる

インターネットラジオ アワプラジオ

■東京ラブレター (毎週木曜日・21:00~21:30)

首都圏で活動する NPO や NGO、市民グループや個人の方を紹介する番組です。

●6月のオンエア【4日、11日、18日、25日】

「放射能から子どもたちを守りたい」

NPO 法人子ども全国ネット 中山瑞穂さんに聞く
ナビゲーター: あべこう一、高木祥衣

●番組を聴くには

【パソコンで聴く】「サイマルラジオ」にアクセス。
「近畿」→「FM わいわい」を選択。※Macの方はWindows Media Playerをダウンロードしてください。

【スマートフォンや iPad で聴く】サイマルラジオに対応したアプリ「TuneIn Radio」をダウンロード。
(検索窓で「FMYY」)。

■ラジオドラマ『河童の水墨画』第一回を公開

●公式サイト <http://kappa-elegy.jimdo.com/>

セミナー・イベント情報

■2015. 6. 19 (金) コーチング哲学カフェ

4月28日に「自分の強みを知るための『眠らせている資源』発見セミナー特別篇」として開催したコーチング哲学カフェを好評につき今回も開催!

時間: 19:30~21:00 (開場 19:00 予定)

場所: ちよだボランティアセンター3階C会議室

(JR「水道橋駅」東口5分・地下鉄「神保町駅」A5出口5分) 参加費: 500円

※広い会場ではありませんのでできるだけ事前にご予約をお願いします。

<すべてのお問い合わせ>

awapuradio@gmail.com/090-6833-1491

編集後記

ずっと歌を続けながら年齢を重ねてくると変にプライドばかりが高くなってしまい、他人から率直な感想を述べられたり、評価を下されたりすることに対して臆病になってくるものです。近頃、ヘタをすると自分の子どもくらいの年齢のミュージシャンと同じステージに立つ機会もあって、そんなことではダメだと彼ら、彼女らの真摯な姿勢と演奏にとっても刺激を受けています。

(阿部浩一)